

7/12 英世会セミナー

作業療法の専門性について

～作業の強みや理学療法との違い・支援への活かし方について～

医療法人社団 英世会

介護老人保健施設 カトリア

作業療法士 渡邊 恒太

はじめに

作業療法という分野に対してどのような印象をお持ちでしょうか？

- 手のリハビリ？
- 作業のリハビリ？
- 精神、認知機能のリハビリ？
- 生活のリハビリ？



などなど・・・

様々な印象をお持ちだと思います

家族・利用者様に作業療法について訊かれた時、どのように対応されますか？

例えば・・・

- ・作業療法って何の事ですか？
- ・理学療法と作業療法ってどう違うんですか？
- ・作業療法士って何が得意なんですか？
- ・支援にどう活かされるんですか？

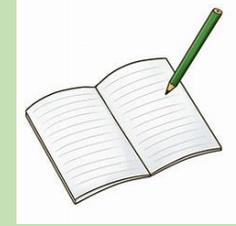
・・・などなど

これらの質問に対して

少しでも返答に迷いがある・自信がないようであれば

今回の講義が少しでも皆様のお役に立てば幸いと存じます

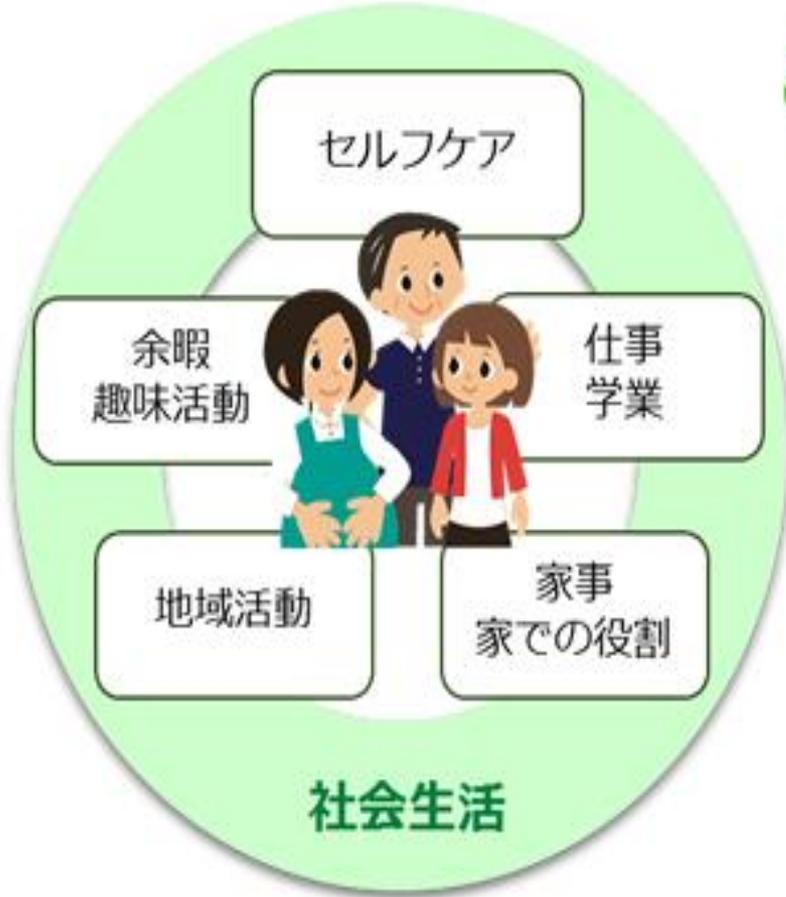
講義の流れ



- 作業とは
作業療法の「作業」って？
- 作業療法について
介入のプロセス・事例紹介・理学療法との違いなど

作業とは
～作業療法の「作業」について～

作業療法の「作業」は「手作業」ではない！



みんなが「作業」している

-「作業」って？-

食事したり、お風呂に入ったり、遊んだり、勉強する
人の生活に関わる全ての活動が「作業」です。

「作業」は、みなさんと社会生活を繋ぎます。

作業の定義

「人が自分の文化で意味がある行う事のすべて」

(世界作業療法士連盟)

「作業」は支援の場において、いろいろな言葉に置き換えられている事にお気づきですか？

- 生活行為
- 活動・参加
- その人らしさ
- いきいきと過ごす
- したい事を出来る
- 生きがいづくり ……など



作業に焦点を当てる
という事

作業療法士以外の支援者も「作業」について理解する事は非常に重要である

自分の生活を振り返ってみると・・・

「個人的にしたいと思う作業」

「する必要のある作業」

「社会的・文化的にする事を期待されている作業」
などで溢れている

人の生活は作業で埋め尽くされている



自分らしくいきいきと過ごす事が出来ているのは作業に従事出来ているから(人の健康と強い関連がある)

例) 私にとって重要な作業

子供達と遊ぶ
(重要度10)



家族のために
仕事を頑張る
(重要度8)



私らしさ

仲間とソフトボ
ールで汗を流す
(重要度7)



夜な夜な筋トレを
する(重要度6)



大好きなヤクルトスワ
ローズの応援をする
(重要度6)



すぐに答えられますか？

- 自分にとって重要な作業は？
- その作業は自分らしさ(健康)にどのように担保していますか？

自身にとって重要な作業を考え、分析する視点も支援者として役立つ部分とされます

作業を挙げるのみでは足りない！

人によって作業の意味・形態・機能が異なるため、個人のストーリーと作業の結びつきを考える必要がある

例) 料理をする

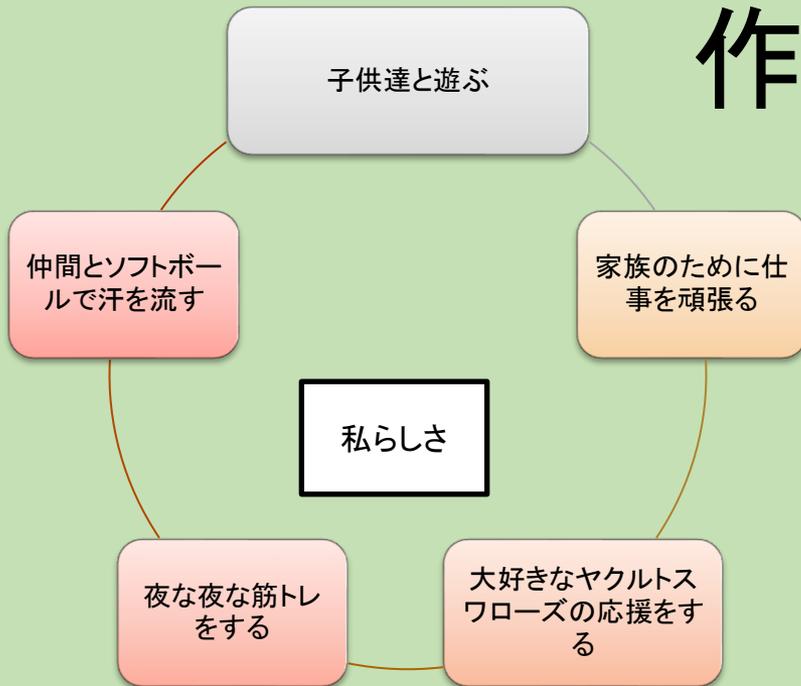


意味: 母親としての役割
形態: 自分の家のキッチンで
家族に食べてもらう
機能: 食べているみんなの顔
を見て嬉しい気持ちに
なれる

意味: 休みの日に趣味の一
環として
形態: 自分の家のキッチンで
自分の作りたい物を作る
機能: 良い気分転換になって
また仕事を頑張れる

意味: 職人として・収入のため
形態: 仕事場のキッチンで、
お客さんに食べてもらう
機能: 仕事としてやりがい
を感じる

作業のバランス



☆健康的な生活を送るために適切な作業のバランスがある
⇒単に重要な作業だけが出来ればいいというわけではない

例①) 子供との時間が自分にとって何よりも重要だが、育休を取ったら、仕事がしなくなった

例②) 仕事・家庭の合間にやるからこそ、ソフトボールや筋トレ・野球を観る事は楽しい



作業同士で影響を与え合っている事も考えなくてはならない

作業療法について

作業療法士とは

「人間が親しく、考え、つくり、育ててきた生活に生き続ける、この作業を人間の健康生活に役立てていく仕事」

日本作業療法士協会 「作業—その治療的応用」より

「その人にふさわしい作業を営む事が出来るよう助け導く仕事」

鎌倉のり子「作業療法の世界」より

「主体性を引き出し、活かし、出来る事、したい事を具体的に定め、合意形成をし、その人らしく生活できるよう支援する事が求められる」

せんだんの丘 作業療法士 土井勝幸より

さまざまな介入があるが……



手のリハビリ



ADLの訓練



認知機能のリハビリ



家事・応用
動作の練習



アクティビティ

……etc

介入の幅が広く、多様なプログラムを行う様子が見られるが……
作業の強みや理論を学んでいる分

どの作業療法士も根底には……

・作業を出来るようになってほしい・作業で元気になって欲しい・
らしさを取り戻して欲しいと思って介入している

作業が出来ない悪循環



作業をする機会の減少



生活の不活発・悪習慣が強化

(例: 寝てばかりいる

人に逢わなくなる・・・etc)

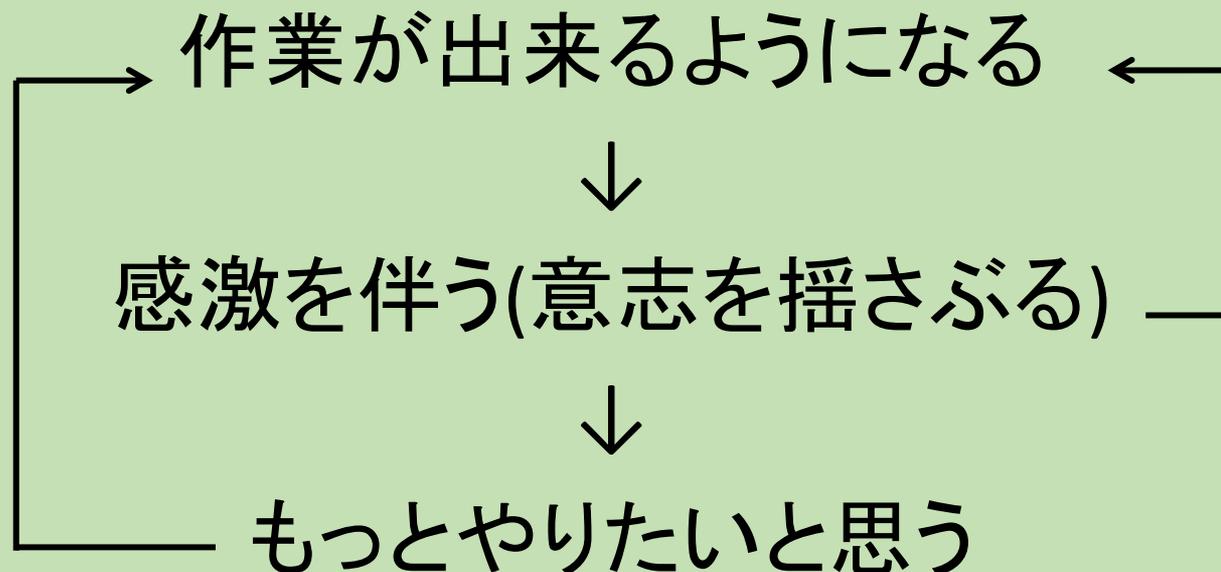


自信がなくなる(無価値感)





作業の良循環



作業が出来るようになる事でその人らしさにつながり、健康に近づけていくのが作業療法士の役割

介護保険領域においては自立支援・重度化防止にもつながる

作業療法の介入は可能な範囲で 面接からはじめていくのが理想

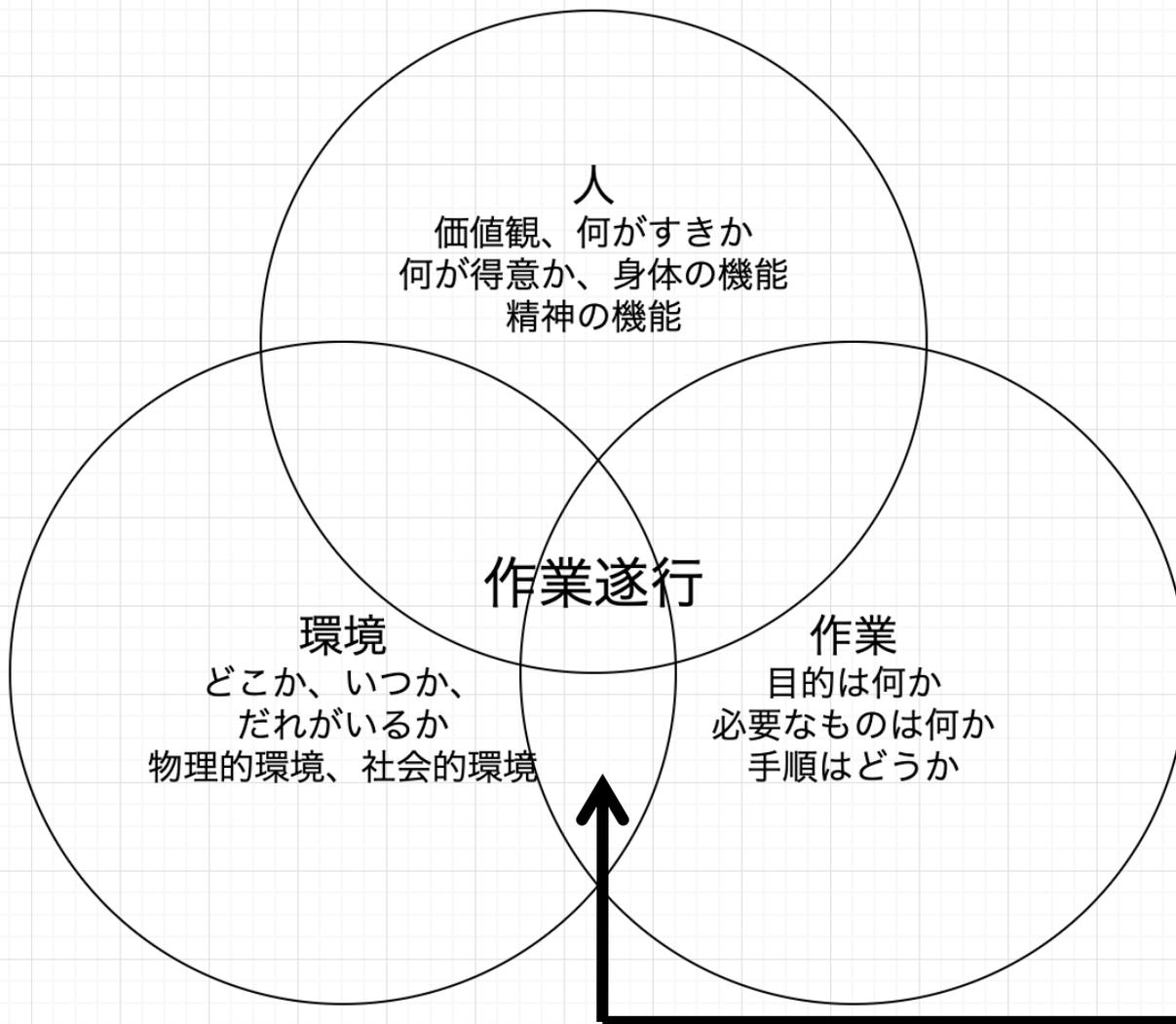
- 作業療法を知ってもらうため
- 信頼関係・協業関係を築くため
- これまでの生活歴(作業歴)を知り、その人らしさをデザインする手がかりとするため
- 目標とする作業を共有をするため
- 利用者が参加型で取り組めるようにするため

・・・etc





作業を出来るようにする = 身体を良くするだけではない



人・環境・作業の円が
バランス良く重なるよ
う介入していく事が作
業療法士として必要
なスキル

作業を可能化する10の技能

技能	内容
①適応 adapt	道具を使ったり、やり方を変える、環境を変えるなど行い、作業に適応できるようにする。
②代弁 advocate	作業ができるようになるために必要なことを代わりに主張する。
③コーチcoach	能力が発揮できるように、励ましたり、アドバイスをする。
④協働 collaborate	目標に向かってコミュニケーションを取りながら一緒に取り組む。
⑤相談 consult	問題に対して、作業療法士だけでなく多職種で専門的知識や技能に基づいて問題を理解し、解決する
⑥調節 coordinate	作業をできるようにクライアントの関係者や多職種、関係機関を調節して、連携を取る。
⑦デザイン・実行 design/build	装具や自助具などをデザインして作成する
⑧教育 educate	物事を実際にやってみて、行動して、行って見て学ぶ
⑨結びつけ engage	作業をできるように周囲の人たちを巻き込んでいく
⑩特殊化 specialize	作業が行えるように、特定の場面で特定の技術を用いる。ポジショニング、神経発達の技法、認知アプローチなどが含まれる。



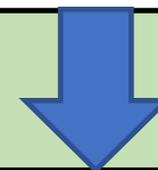
退院後、一人暮らしに戻るが入院時の担当セラピストから外出する事を止められてしまう。
本人は「外に出る事が私らしさなのに・・・」と落ち込む様子あり



リハビリ内で屋外歩行練習を実施。
自宅訪問時、自宅でも外出が行えるかの動作確認を実施。



見守りで近所のセブンイレブンまで買い物に行ける事を確認。



本人の想いをケアマネージャーに代弁すると共に、行えるレベルを共有。
ヘルパーと買い物に行く形でサービス調整する



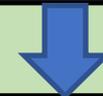
脳梗塞後、中等度の麻痺が残るが入浴以外のADLが自立し、独居生活に適応が見られた



満足した生活をするには「ゴルフができれば・・・」との発言あり



麻痺があるからやらないではなく、麻痺がある中でできる方法を共に研究し動作の確認を実施



ゴルフの熱が再燃。自宅庭にネットを張り、新たな運動習慣が確立された



デイケアに通う事で
自宅での入浴が可能となり、長年
悩んでいた麻痺側上肢の機能に
改善が見られた



新たな目標を一緒に探す
なかで「車の運転を再開し
たい」との希望あり



車の運転動作を麻痺側上
肢がどの程度参加できる
かを確認
乗車や運転動作を確認し
た中で徐々に不安・緊張が
軽減



カトレアデイケア卒業後、教習
所に通う事を決意される

作業療法と理学療法の違い

身体の機能・ADL能力を評価した上で・・・

- 精神面を重視している

⇒ 現状に満足しているか？出来るようになりたい作業はないか？・・・etc

- 望ましい生活習慣を構築していく視点

⇒ 寝てばかりいるなど生活が不活発になってないか？作業のバランスはどうか？

- 環境と作業を結びつける視点

⇒ 作業を出来るようになるために、物理的環境・人的環境にどう働きかけるか？

作業療法士がより得意とする事例（一部）

- 能力は高いが、生活が活発でない
(出来る事としている事に差がある)
- やりたい事はあるが、一歩踏み出せない
- 周りから観て何が出来て何が出来ないか分からない
- 楽しみが減り、生活が徐々に不活発になってきている
- 認知面が低下している中で周囲の方に関り方を
教えて欲しい ……などなど

自宅で生活されている方=本来の環境であるため
作業療法の理論に当てはめやすい！

まとめ

- 作業療法について理解を深められるよう
 - ①作業療法の作業 ②作業療法についての2点について 例を交えながら説明を行った
- 作業療法の「作業」は手作業や編み物などではなく「自身にとって大事なもの」で健康に強く関係している
- 作業療法士はその方が作業が出来るようになる事で健康に近づけていく事を重視している
- 介入過程を事例を提示しながら

利用者様のより良い支援のために今回の講義が少しでも役に立つものになれば幸いです。

今後とも連携の程よろしくお願い致します。

ご静聴・ご視聴ありがとうございました